

前沢小学校アクションプラン

実践のまとめ

本校では、「信頼される学校づくり・開かれた学校づくり」を実現するため、とやま型学校評価システムに基づき、以下の3つの観点を挙げて、「前沢小学校アクションプラン」を策定し、取り組みを進めてきました。

とやま型学校評価システムの3つの観点

- ① 学校の教育重点目標をもとに、課題を設定し、分かりやすい数値で表す。
- ② 外部評価（学校評議員等）を実施する。
- ③ 重点課題、数値目標及び評価結果を公表する。

年度当初に、学習指導、生徒指導、健康・体力づくりの3つの重点項目ごとに、それぞれ、読書の習慣化、あいさつの習慣化、運動の日常化の重点課題を設定し、具体的な数値目標を掲げ、アクションプランの実践を進めてきました。

また、それらの設定や取り組みの実態を、学校評議員会で報告するとともに、学期ごとに進捗を評価し、取り組みの見直しを行ってきました。さらに、アクションプランを学校ホームページや学校だよりで公開し、保護者や家族、地域の方々にも理解していただけるよう努めてきました。

評価については、学校評議員等の意見や保護者を対象に行った学校評価アンケート、校内で行った取り組みへの評価などをもとに、1年間の実践のまとめとして、それぞれのアクションプランごとに次のように取りまとめました。

このまとめについては、

学校ホームページ「前沢小学校ウェブサイト」<http://www.tym.ed.jp/sc23/>

でも公開しています。

アクションプラン 1			
重点項目	学習指導	重点課題	読書の習慣化
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの学年読書目標の達成率 80%以上を目指す。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 読書タイムの定着により、本に親しむ児童が増えている。低学年は、朝の読書タイムの読み聞かせを楽しみにしている。 平成22年度は、学年ごとに達成目標を設定し、取り組みを進め、全校達成率は86%であった。目標をはるかに超えて読書に取り組んだ児童が多く見られる一方で、なかなか読書量が増えない児童もあり、個人差がある。 家庭での読書や親子読書は継続して呼びかけており、徐々に取り組みが広がりつつあるが、定着しているとはいえない現状である。 		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 週2回、火・金曜日の業前活動として読書タイムを設け、本に親しむ時間を確保する。 教師や学校図書館活動推進員、児童相互におすすめの本を紹介したり、読み聞かせやブックトークを積極的に取り入れたりすることで、読書への意欲を高める。 家庭学習（自主学習）において、音読や読書に取り組む機会を増やす。また、読書強調週間を設け、「親子読書」「家読（うちどく）」など家族と一緒に読書する時間をもつように呼びかける。 図書委員会が、本の紹介やクイズで興味を高め、多読賞の表彰などで意欲を高める。 学校図書館活動推進員に協力を得て、「新刊コーナー」や季節や行事、学習内容に合わせた図書を紹介するコーナーを設けるなど、多様な読書に親しむことができる環境を整える。 		
評 価 者	自己評価（教職員）学校関係者評価（学校評議員）アンケート（児童・保護者）		
公開の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1、3学期の学級懇談会で保護者に知らせる。 学校だよりやホームページで地域に知らせる。 		
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の年間の読書目標の達成率は、4つの学年で80%を超えた。 学期ごとの目標を1、2、3学期とも達成した児童は、26人で38%であった。読書週間のあった2学期の達成率が高く、3学期は達成率が下がった。 年間の全校達成率は、80%であった。 目標をはるかに超えた児童も多く見られたが、家庭での読書量が少ない児童もいる。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 古い本の廃棄、新刊本、「エコ本」の購入、児童が本を手に取りたくなる「おすすめの本のコーナー」づくりなど、積極的に図書の充実や環境整備を行った。また、情報センターとしての活用や子どもたちが居心地のよい図書室づくりを進めた。 朝活動での読書タイムを設定した。 多読賞の表彰をしたり、図書委員会のおすすめの本を紹介したりした。 校内読書週間を中心に、家庭での読書を勧めた。図書だよりを発行し、家庭への働きかけを行った。 学校図書館活動推進員による季節や行事に合わせた図書館の環境整備や読み聞かせを行った。 学級文庫を月ごとに入れ替えたり、市立図書館から教科書に関連する図書をまとめて借り、読書の時間に読んだり、学級に本のコーナーをつくったりなど、教室の読書環境を整えた。 		
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期とも学年読書目標を達成した児童は38%で、学期の目標設定の妥当性を検討する必要がある。 読書好きの児童は多く、年間を通した読書目標達成率はほぼ80%であった。学年読書目標の何倍もの読書量の児童も多く見られた。 家庭での読書や親子読書は十分な数値が出ていないが、広がりつつある。家庭での読書をさらに啓発し、児童の読書環境を整えたい。 	
外部評価者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童が目標をもって読書活動を進められるよう、目標の設定や読書の環境づくりを工夫して取り組んで欲しい。 家庭での読書活動が広がるよう実践的な啓発に努めて欲しい。 		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化)

アクションプラン 2			
重点項目	生徒指導	重点課題	あいさつの習慣化
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート及び保護者アンケートのあいさつにかかわる項目全体の平均がいずれも80%以上を目指す（児童9項目、保護者8項目） 		
現状	<ul style="list-style-type: none"> 「おはよう」や「さようなら」のあいさつを自分から進んで言う児童が増えてきたが、まだ声が小さい児童もいる。平成22年度の児童の自己評価では、「大きな声であいさつする」の達成率は82%、「自分からあいさつする」の達成率は89%だった。 地域の人や来客にあいさつをする児童が少しずつ増えている。平成22年度の児童の自己評価では、「地域の方にあいさつする」の達成率は81%だった。 児童の自己評価が比較的高いのに比べて、保護者の評価はやや低い。しかし、「おはよう」「おやすみ」などの家庭内でのあいさつには向上傾向が見られる。 		
方策	<ul style="list-style-type: none"> 「しあわせ運動」の「わ」の運動として、児童会を中心にあいさつ運動に取り組む。大きな声であいさつする「あいさつ名人」の紹介や表彰を行う。 児童会活動として、定期的にあいさつ強調週間を設け、あいさつボランティアを募集し児童玄関前で子どもたち相互に呼びかけ合う「あいさつ運動」を進める。また、期間中は重点項目を設定し、カードなどを用いた評価活動を行う。 あいさつをされたら元気にあいさつを返す「あいさつ返し」を習慣付ける。 家庭との連携を図り、家庭内で声を出してあいさつを交わし合う習慣をもつよう呼びかける。 		
評価者	自己評価（教職員）学校関係者評価（学校評議員）アンケート（児童・保護者）		
公開の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1、3学期の学級懇談会で保護者に知らせる。 学校だよりやホームページで地域に知らせる。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度のあいさつにかかわる項目全体の平均達成度は、児童アンケート（9項目）で89%、保護者アンケート（8項目）では83%であった。 児童アンケートでは、「登下校の途中で出会った人にあいさつする」の達成度は91%、「地域行事であいさつする」の達成度は81%、といずれもわずかながら向上している。 児童アンケートでは、「大きな声であいさつする」の達成度は、76%、「自分から進んであいさつする」の達成度は87%で少し低下傾向にある。 保護者のアンケートでは、「おはよう」「おやすみ」など家庭内でのあいさつの状況が高くなっている。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ運動」を継続して行った。児童会でのボランティアの呼びかけに参加してあいさつ運動に加わるなど、積極的にあいさつを進める動きがあった。 あいさつ強調週間を設定し、評価カードを使用して意識を高めた。毎朝のあいさつの様子の給食時の報告や、あいさつ名人の表彰を行い、取り組みへの意欲を高めた。 桜井校区が連携した「あいさつ」運動を展開し、家庭・地域ぐるみのあいさつ運動を展開した。 		
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ運動」の多様な展開で、あいさつが習慣化した児童が増えた。 教室内や家庭内でのあいさつは向上しているが、日常的にあいさつを交わすまでにはなっていない。 なかなかあいさつの声が出せない児童がいる。 	
外部評価者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 児童のあいさつの状況はとても向上している。地域でも児童の取り組みを支えていけるよう、地域であいさつを交わすことを呼びかけていきたい。 自発的な児童会の取り組みとして進めている点が評価できる。みんなで取り組みもうとする意識付けや、自分から進んでやっという意識など、あいさつ運動を通して、しっかり身に付いている様子がわかる。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化）

アクションプラン 3

重点項目	健康・体力づくり	重点課題	運動の日常化
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでチャレンジ3015」の1回目の達成率90%以上、2回目以上の達成率60%以上を目指す。 		
現状	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団や習いごと等で、生活に運動する機会をもつ習慣がついている児童と、運動をあまり好まない児童とに二分されている傾向がある。 自分の健康づくりや運動について目当てをもち、生活を振り返る「健康いちばんの日」の取り組みを続けてきたが、自己評価が曖昧で取り組みの達成感や充実感が感じにくかった。 平成22年度のスポーツテスト等の体力診断テストの結果では、全身敏捷性に優れているが、筋力や柔軟性に劣っていることがわかった。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでチャレンジ3015」の記録用紙を教室に掲示し、運動するごとに記録しやすくする。 運動を継続しようとする意欲を高めるために「みんなでチャレンジ3015」を2回以上達成した児童には、児童が原案をデザインしたオリジナルの缶バッジを授与することとし、児童会の保健・体育委員会から啓発し、児童相互に励まし合いながら運動を続ける意欲を高める。 体力づくりコーナーを設け、児童が気軽に自分の力試しをしたり、多様な動きに取り組みだりできるようにする。 		
評価者	自己評価(教職員) 学校関係者評価(学校評議員) アンケート(児童・保護者)		
公開の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1、3学期の学級懇談会で保護者に知らせる。 学校だよりやホームページで地域に知らせる。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでチャレンジ3015」の1回目の達成率は100%であった。 「みんなでチャレンジ3015」の2回目以上の達成率は43%で、昨年と変わらなかった。 アンケートの項目「体を動かすことが好きだ」という児童が96%に達している。また、保護者のアンケートでも92%を超えている。体を動かすことへの日常的な意欲が高いと判断できる。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでチャレンジ3015」の記録用紙を教室に掲示し、記録しやすくした。継続的に意欲を持つことができるよう児童の保健・体育委員会で定期的に達成状況を伝えた。また、記録掲示板には、6年生の立山登山での達成ポイントでの写真を掲げたことで、親しみをもつことができた。 1学期には外部指導者による水泳の指導を行った。泳ぎ方の基本を教えてもらい、楽しく泳ぐことで、夏休みのプール利用への意欲を高めた。 2学期には、外部指導者によるマット運動の指導を行った。柔軟運動の方法を教わり、柔軟性の大切さを学ぶことができ、体育科の準備運動などに生かしている。 冬季には、「なわとびカード」を活用した。いろいろな種目への挑戦を点数化することで、意欲的になわとび練習に取り組むことができた。 なわとび練習用のボードを2階、3階の廊下に出し、自由に二重とびなどの練習ができるようにした。休み時間には、多くの子どもが利用して練習していた。 なわとび名人集会で上手な子どものとび方を見ることで、自分もやってみようと思意欲的に練習する子どもが多かった。また、長なわとびの発表を取り入れたことで、異学年グループでの活動で目的意識をもち、協力しながら取り組むことができた。 		
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の運動好きは定着しており、日常的な運動意欲は高い。 「みんなでチャレンジ3015」の2回目以上の達成者数が昨年と変わらなかった。 2回以上の達成目標が高かったと考える。また、1回目を達成することで達成感をもつことや、実際には運動していても、記録をしないことが原因と考えられる。 	
外部評価者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 2回目以降でも意欲的に取り組めるような工夫が必要である。 運動好きの子どもたちが精一杯活動できるような環境整備を進めて欲しい。 		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪化)